

第160期 中間期 株主通信

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日

日本板硝子株式会社

証券コード:5202

Contents

- CEOメッセージ / 中期経営計画の進捗状況
- 中間期事業環境および業績 / 配当について
- セグメント別概況
- 〈特集〉真空ガラス「スペーシア®」
- 統合報告書のご紹介

建築物における脱炭素化への貢献

このオランダの斬新なビルには当社グループ独自のコーティング技術を使用した高付加価値なガラス製品群が採用され、建築物における脱炭素化に貢献しつつ、日射を制御して夏は熱流入を、冬は熱損失を抑制し、一年を通して快適な室内環境を実現しています。

当社ウェブサイト・SNSのご案内

決算情報や最新ニュースなど、皆様への様々な情報を掲載しています。

<https://www.nsg.co.jp/>



Follow
me!

当社公式
SNSキャラクター
Nグマくん



CEOメッセージ

中期経営計画の戦略の柱である4つの「D」の軸をぶらすことなく、引き続きグループ全体の高付加価値化のための施策を推進し、目標達成を目指します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに中期経営計画の進捗状況と、第160期中間期(2025年4月1日から2025年9月30日まで)の事業環境および業績についてご報告申し上げます。

2025年11月

日本板硝子株式会社
取締役 代表執行役社長兼CEO

細沼 宗浩



▶ 中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」の進捗状況

2025年3月期を初年度とする中期経営計画においては、収益性を向上させキャッシュ創出力を高め財務基盤を改善することに徹底して注力することを目標にしています。当期上期実績は、欧州の経済減速の影響を受けて営業利益が目標から乖離したことに伴い、営業利益率、フリー・キャッシュ・フロー、有利子負債、および自己資本比率と全ての中期経営計画における財務目標から乖離しています。ただ欧州以外の事業は順調に進捗していることから方向性や施策は間違っていないと考えており、今後は欧州事業で人員の適正化を含めたコスト削減施策等を進めることにより目標達成を目指します。

戦略の柱となる4つの「D」につきましては、新製品および事業開発の強化を図るBusiness Developmentでは、建築用ガラス事業について、日本およびポーランドで省エネガラス向けに最新鋭のコーティング設備の投資が進捗しています。また自動車用ガラス事業について、北米で高精度

プレス工法の設備を導入します。高機能ガラス事業についても、SELFOC®やグラスコードの技術を応用した製品によりグローバルニッチトップとして強みを発揮している既存市場から隣接市場への拡大を行っています。これらの施策により、世界的に需要が高まっている高付加価値製品への対応を加速していきます。社会の脱炭素化への貢献を目指すDecarbonizationでは、米国に当社グループのガラスを使用した太陽光発電システムを設置しました。デジタルをフル活用した付加価値の高いオペレーションを構築するDigital Transformationでは、製造拠点に映像解析AIを活用した職場安全管理システムを導入し、さらなる労働安全の向上を目指します。Diverse Talentではフェーズシフトをもたらす真に多様で包括的なチームを実現すべく様々な施策を進めており、働きやすさや競争力向上を目指し従業員意識調査「Your Voice」を実施しました。

NSGグループ戦略方針 4つの「D」

営業利益

営業利益率(ROS)

フリー・キャッシュ・フロー

有利子負債

自己資本比率

Business Development

新製品および事業開発の強化を図り

Decarbonization

社会の脱炭素化への貢献を目指す

Digital Transformation

デジタルをフル活用した付加価値の高いオペレーションを構築して

Diverse Talent

フェーズシフトをもたらす真に多様で包括的なチームを実現する

2026年3月期
中間期実績

120億円

2.9%

△196億円

5,379億円

10.4%

2027年3月期
目標

640億円

7%

270億円

4,420億円

15%

2030年3月期
営業利益率(ROS)
10%以上を目指す

中間期事業環境および業績

当期上期において、事業環境は概ね安定していました。建築用ガラス事業では、欧州における販売価格は前年度に実施した生産能力削減に伴い回復しましたが、その他の地域では販売数量が低水準にとどまりました。自動車用ガラス事業の市場も、販売数量がほとんどの地域で伸び悩みました。高性能ガラス事業は、事業ごとに濃淡がありました。売上高は前年同期と同水準の4,208億円(前年同期は4,224億円)でしたが、営業利益は120億円(同102億円)と増益で、業績予想を上回りました。これは主に欧州の建築用ガラス事業による

ものです。親会社の所有者に帰属する中間損失は英国債売却に伴う損失を個別開示項目に計上したため42億円(同39億円の損失)となり、前年同期および業績予測を下回りました。下期の事業環境については、欧州市場が緩やかに回復する一方で、米国関税政策に伴う不確定要素が依然継続する見込みです。このため、上期実績が業績予想を上回ったものの通期業績予想は変更していません。通期黒字転換とする業績予想を達成すべく、グループ全体でのさらなるコスト削減等あらゆる施策を実施してまいります。

配当について

当社グループは、持続可能な事業の業績と財務基盤をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針としております。当中間期の普通株式配当につきましては、当社グループの業績および財務状況等を総合的に勘案し、誠に遺憾ながら、その実施を見送らせていただくことといたしました。

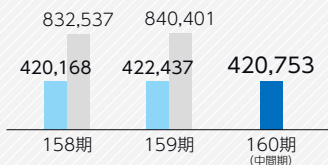
配当は株主の皆様にとって非常に重要なものであると認識しており、中期経営計画を通じて、グループ一丸となって業績改善、財務基盤の強化に全力を傾けていく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

業績ハイライト

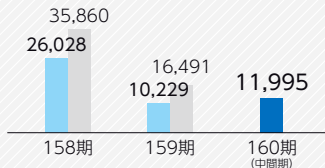
売上高 (単位:百万円)

■ 中間期 ■ 通期



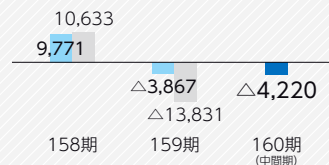
営業利益 (単位:百万円)

■ 中間期 ■ 通期



親会社の所有者に帰属する中間(当期)利益(△は損失) (単位:百万円)

■ 中間期 ■ 通期



注1:当社は国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。

注2:上記に記載の営業利益は、個別開示項目前ベースの営業利益を記載しています。

高性能ガラス

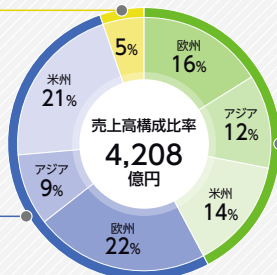
売上高 **216億円**

5%

自動車用ガラス

売上高 **2,212億円**

53%



建築用ガラス

売上高 **1,777億円**

42%

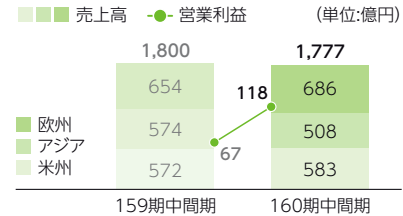
セグメント別概況(第160期中間期)

建築用ガラス事業



売上高 | 1,777億円

営業利益 | 118億円



POINT

- ・売上高は減少したが、営業利益は特に欧州において販売価格が改善し大幅に増加。
- ・前年度に実施した生産停止に伴うコスト削減効果も引き続き寄与。

太陽電池パネル用ガラス



CO₂排出量削減に貢献する戦略製品として、生産能力を強化

コーティングガラス



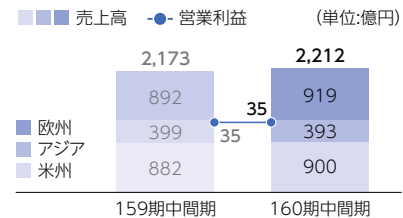
高付加価値領域の拡大に向け、日本およびポーランドで最新鋭の設備投資が進捗

自動車用ガラス事業



売上高 | 2,212億円

営業利益 | 35億円



POINT

- ・売上高はやや増加したが、営業利益は横ばい。
- ・販売数量は減少したが、補修用ガラスを中心に販売価格の改善が進展。

先進的ディスプレイの実現 ・HUD用フロントガラス



フロントガラス上で、車両前方10mの仮想面に交通情報等を表示

EV用新世代ルーフガラス ・調光機能付きガラス



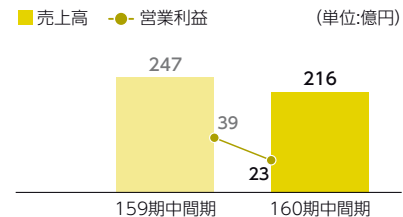
透明・不透明を瞬時に切り替え、快適性とエネルギー効率の向上を実現

高機能ガラス事業



売上高 | 216億円

営業利益 | 23億円



POINT

- ・売上高および営業利益は、一部製品の販売が下期にずれ込むことにより販売構成に影響を受け、減少。
- ・ガラスコードの補修用市場での堅調な需要が継続し、上記影響を一部軽減。

半導体材料向け低誘電ガラスフレーク (HIENCYFLAKE™)



半導体パッケージのさらなる高性能化・小型化の実現に貢献する材料

化粧品材料向けメタシャイン®・MAR'VINA®



業界の新規性に対応、環境や人体に優しいボロンフリー・低重金属のガラス等の無機材料

世界初の真空ガラス「スペーシア®」、 28年間の進化とサステナビリティへの価値

真空ガラス
スペーシア®

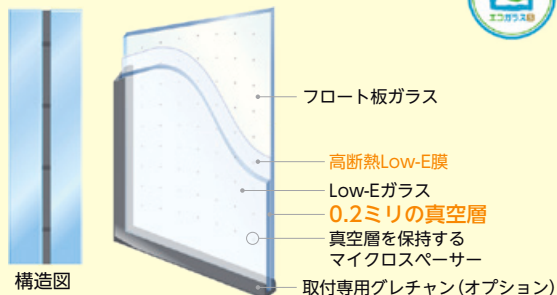
☑ 高断熱真空ガラス 「スペーシア®」とは？

2枚のガラスの間に**0.2ミリの真空層**を閉じ込める**真空技術**と、**特殊金属膜コーティング技術**により、それまでの複層ガラスの常識を覆す、**高断熱性を実現**しました。

さらに遮熱性能を備えたタイプ（スペーシア®クール）を揃え、省エネ改修などの様々なニーズにお応えしています。

1997年の発売開始以来進化を続け、当社グループの技術力と環境問題への取り組みを象徴する存在として、企業価値向上の重要な柱となっています。

世界で初めて実現された真空テクノロジー

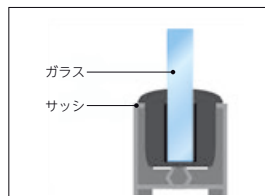


☑ リフォームでの高い優位性 — 窓用サッシを「そのまま活用」

近年では、既存建築物の大規模改修工事のみならず、省エネ化を実現するための断熱改修工事が計画されることも少なくありません。

スペーシア®は、**ガラス2枚と真空層を合わせても薄い**ため、**従来の一枚ガラスの窓用サッシを「そのまま活用」**することが可能です。複層ガラスのように分厚いサッシを必要としない、**容易な施工性**が評価され、一般住宅のリフォーム工事のみならず、**多くの建築物の断熱改修工事で支持されています。**

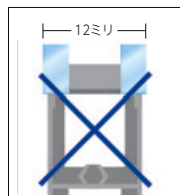
一枚ガラス



スペーシア®



複層ガラス



スペーシア®は一枚ガラスと厚さがほとんど変わらないため、複層ガラスとは異なり、既存サッシをそのまま使用いただけます。

▶ スペーシア®採用例：東京科学大学

**高い断熱性能と施工性で
歴史ある建築物の
省エネルギー・脱炭素化に貢献**

CO₂排出削減の数値目標に基づく省エネ対策として、「スペーシア®」を採用いただき、計約1,400㎡を超えるガラスを納入しました。これは、高断熱性能と既存サッシ対応によるコスト優位性が評価されたものです。

東京科学大学 (大岡山)
本館



▶ 統合報告書のご紹介

当社グループが強みを持つ「ガラスとその周辺技術」による、持続可能な社会の発展に向けた取り組みについてステークホルダーの皆様にお伝えするものです。昨年3月発表の「第3回日経統合報告書アワード」では「新人賞」を受賞しました。

POINT 1

執行陣メッセージ

中期経営計画の下での財務体質改善や企業価値向上に向けた取り組みや今後の方針について、CEOやCFOをはじめとした経営陣の強い思いが込められたメッセージです。



POINT 2

社外取締役対談

独立社外取締役ならではの客観的かつ専門的な視点から、取締役会や委員会の実効性向上への取り組みや課題について語られています。



POINT 3

特集：クリエイティブ・テクノロジー事業部門

環境・デジタル・オプティクスを重点領域とし、ユニークな製品・技術・人材を競争力の源泉に、顧客への新たな価値創出と事業拡大に取り組むクリエイティブ・テクノロジー事業部門を紹介しています。



POINT 4

ESGへの取り組み

中期経営計画の戦略の柱となる4つの「D」*である、脱炭素、戦略製品開発、多様な人材などをはじめ、サーキュラーエコノミー、自然との共生（生物多様性）や、社会・ガバナンスコンテンツも、より充実させています。

*4つの「D」： Business Development, Decarbonization, Digital Transformation, Diverse Talent



CHECK!

「統合報告書2025」を是非ご覧ください



▶ パソコンから



日本板硝子 統合報告書
<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/investors/ir-library/annual-reports>

▶ スマートフォンから



会社概要 (2025年9月30日現在)

商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産東京三田サウスタワー)
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	25,079人
資本金	116,913百万円
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:5202)
お問い合わせ	https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us

▶ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1～99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、
(1) 買取請求または
(2) 買増請求(ご所有の単元未満株式と合わせて1単元(100株)に達するまでの株式を買い増すこと)を
することができます。
お手続きの詳細につきましては、下記 [▶ご住所変更などのお届出およびご照会について](#) に記載の照会先にお問い合わせください。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当9月30日・3月31日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 (郵便物ご送付先)	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話ご照会先)	0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間9:00-17:00(土日休日を除く)

▶ ご住所変更などのお届出およびご照会について

〈証券会社に口座をお持ちの株主様〉取引口座のある証券会社にお問い合わせください。
〈証券会社の口座をお持ちでない(特別口座の)株主様〉上記の(電話ご照会先)までお問い合わせください。

役員 (2025年9月30日現在)

当社は、指名委員会等設置会社制度を採用しています。

取締役

独立社外取締役 取締役会議長	石野 博	指名委員長		
独立社外取締役	皆川 邦仁	指名委員	監査委員長	報酬委員
独立社外取締役	浅妻 慎司	指名委員	監査委員	報酬委員長
独立社外取締役	藤岡 哲哉		監査委員	
独立社外取締役	上釜 健宏	指名委員		報酬委員
独立社外取締役	宮崎 秀樹	指名委員	監査委員	
取締役	細沼 宗浩	指名委員		報酬委員
取締役	デニース・ヘイラー			

執行役

代表執行役社長兼CEO	細沼 宗浩
執行役会長	森 重樹
執行役常務	デニース・ヘイラー
執行役常務	相浦 宏
執行役常務	レオポルド・ガルセス・カスティージャ
執行役常務	岡本 久
執行役常務	ロブ・パーセル
執行役	神林 正樹
執行役	ミハエル・キーファー
執行役	小林 史朗
執行役	中辻 陽平
執行役	ケビン・サンダーソン
執行役	イアン・スミス

<https://koekiku.jp>

アクセスキー

株主アンケートにご協力ください

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエイク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエイク事務局」 koekiku@pronexus.co.jp



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

